

研究課題名	Fontan 手術後の胃食道静脈瘤の発生頻度・予測因子・治療効果に関する研究
研究の意義・目的	Fontan 手術後の長期的な合併症として胃食道静脈瘤が知られていますが、その発生頻度や治療の有用性等についてはほとんど情報がありません。胃食道静脈瘤は出血のリスクがあるため、静脈瘤の発生頻度やスクリーニング検査ならびに治療のタイミングを理解することは、術後の長期的な診療を円滑に進める上で重要です。本研究は、術後の胃食道静脈瘤の発生頻度や治療の選択肢・効果に関する情報を調査し、胃食道静脈瘤の予測に有用な指標の解析を目指します。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2021 年 3 月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2010 年 04 月 01 日～2020 年 05 月 20 日に大阪市立大学医学部附属病院の小児科ならびに大阪市立総合医療センターで、腹部造影 CT 検査を受けられた Fontan 術後患者の方が対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：なし 診療情報等：【年齢、性別、Fontan 手術日、基礎心疾患、投薬歴、消化器症状、消化器症状に対する治療内容、血液検査データ、内視鏡検査データ、腹部 CT 検査データ、血管造影検査データ、画像下治療 (IVR) データ】
試料・情報の他機関への提供	大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学から他の施設に情報は提供いたしません。共同研究機関大阪市立総合医療センター小児循環器内科から情報の提供を受けて研究を実施します。
この研究を行っている共同研究機関	大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 徳原 大介 大阪市立総合医療センター小児循環器内科・肝臓内科 江原 英治
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 研究責任者 徳原 大介
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	受付方法：電話あるいはメール 電話：06-6645-3816（大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学 医局） メール：m1155519@med.osaka-cu.ac.jp 担当者名：徳原 大介